

第 23 期「学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン」策定にあたってのアンケート（私案）

2015 年 5 月 12 日

趣旨：日本学術会議科学者委員会第 23 期「学術の大型研究計画検討分科会」は、提言「第 22 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン 2014）」の改訂（アップデート）版マスタープラン 2017 を策定する予定であります。つきましては、その策定方針について、広くご意見を伺いたいと思います。

アンケート対象者：日本学術会議第 23 期会員および第 22 期大型研究計画提案者（不採用になった計画の応募者も含む）

実施時期：2015 年 7, 8 月

質問項目：

1. マスタープラン 2014 意義について  
マスタープランの策定の意義の有無、また、マスタープランの活用の有無、活用の方法などについて自由記述
2. マスタープラン 2014 のフォローアップとして、重点大型研究計画 27 件の進行状況についてヒアリングをすべきか？（予算獲得状況、準備状況、計画進行状況などの説明を求める）。
3. マスタープラン 2017 策定のプロセスについて
  - (ア) 第 22 期のアップデートとしての第 23 期マスタープランについて
    - ① 新規提案を公募する
    - ② マスタープラン 2014 に採用されなかった提案も受け付ける
    - ③ マスタープラン 2014 に採用されたもので、改訂された提案（アップデート）を受け付ける
  - (イ) 学術研究領域の制定について：必要の有無、適切かどうか
  - (ウ) 複合・融合領域の制定について
    - ① 第 22 期においては、第一部の人文・社会科学融合領域を除いて、複合・融合領域を予め設定していない。融合領域の提案は、申請者

が主領域と副領域を指定し、まず主領域で審査、その後、副領域がコメントした。この方法だと融合領域が重点大型研究計画に選定させることは少ないと思われる。

- ② 共通インフラ整備や共通ファシリティ建設の提案がしにくい。「研究」提案とは異なるカテゴリーを作ってはどうか？
- ③ 事前に融合領域を設定すべきか？するならば、どのような領域設定が学術会議として適切か？

(エ) 予算規模の設定（総額数十億円超、上限無し）は適切か？カテゴリー分けを導入すべきか（例えば10億円以下、数十億程度、100億円以上など）？

(オ) 公募について：第22期同様、提案は公募でよいか？

(カ) 審査・評価の方法について：第22期同様の審査体制、審査方法、審査基準でよいか？

(キ) マスタープラン策定に関わる利益相反の考え方：第22期同様でよいか？

(ク) 重点大型研究計画について

- ① 学術大型計画区分Ⅰの応募数は209件、採択数は192件
- ② 学術大型計画区分Ⅱの応募数は15件、採択数は15件
- ③ 重点大型研究計画のヒアリング対象件数は66件、採択数は27件
- ④ 第23期の重点大型研究計画は、新規提案および第22期のアップデートの両方から選ぶことでよいか？

(ケ) 公表について

- ① 学術大型計画区分Ⅰ採択の192件、区分Ⅱ採択15件
- ② 重点大型研究計画採択の27件のみ（他のヒアリング対象計画は、ヒアリング対象になったことについて公表していない。）
- ③ ヒアリング対象となったことを公表すべきか？

(コ) そのほか、マスタープラン2017策定に関して、自由記述をお願いします。